

日本放射線技術学会中部部会 第3回医療情報システム研究会
シンポジウム

テーマ：「RISを再考する」
～次世代RISは見えてくるのか～

e-Japan 構想発表以来、放射線診療のシステム化がいち早く実現したのは、DICOMの普及と放射線部門システム（RIS）があったからではないでしょうか。近年では放射線部門システムのリプレイスまたは新規導入を迎えている施設が多くあります。しかしながらRISは診療放射線技師にとって進化しているのでしょうか？また、本当に有効に利用されているのでしょうか？これらの疑問を当研究会で取り上げ、RISをもう一度見つめなおしたいと考えます。

今回、「RISの再考」ということで、以下に示す3つの視点をクローズアップして、参加された皆様と討論を行いたいと思います。

視点1：最新RISの状況

視点2：放射線検査を行うにあたり必要な情報

視点3：RISの将来的な展望

今回の医療情報システム研究会ではシンポジウム形式で、この3点に焦点を当てながら、RIS構築のご経験ある先生方に講演をお願いし、RISを多角的に捉えます。

このシンポジウムがこれからRISを導入する施設、RISを再構築する施設において参考になることを期待しております。

《日時》 平成21年11月7日（土） 9：20～10：50
《会場》 大垣市スイトピアセンター 学習館6階 第5会場
《募集人数》 60名程度
《参加費》 無料

《主なプログラム》

座長：豊橋市民病院 原瀬正敏

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1 RIS導入記 | 横河電機株式会社 下村 俊幸 先生 |
| 2 RISで必要とする情報 | 豊橋市民病院 市川 肇 先生 |
| 3 新しいRISの考え方 | 福井大学病院 上坂 秀樹 先生 |